

## 【講演】「アスリートの入口」



(Yahoo検索画像より引用)

**鈴木 桂治 氏** 37歳 柔道五段  
元日本代表柔道選手、現全日本男子強化コーチ  
国士舘大学体育学部武道学科准教授、同大学柔道部監督  
国士舘高校、国士舘大学体育学部卒業  
国士舘大学大学院スポーツシステム研究科修士課程修了  
同大学専任講師を経て現職、日本武道学会所属  
1998年 世界ジュニア柔道選手権大会 優勝  
1998～2001年 全日本柔道体重別選手権大会 4連覇  
2003年・2005年 世界柔道選手権大会 優勝  
2004年 アテネオリンピック柔道競技 優勝  
2004～2005年、2007年 全日本柔道選手権大会 優勝  
その他、数多くの国際大会、全日本大会で優勝を飾る。  
2012年 第一線柔道選手からの引退を発表

3歳で柔道に出会い、高校時代からエースとして頭角を現す。全日本柔道体重別選手権大会では、史上初の高校生王者となり、その後の同大会で4連覇を飾る。また、世界柔道選手権とアテネオリンピック柔道競技では100kg級、100kg超級、無差別級で前人未到の3階級制覇を成し遂げる。現在は、国士舘大学柔道部の監督として、また全日本男子強化コーチとして世界に通用する選手の育成に努めている。

本研修会では、スポーツ活動を生涯に渡って実施する、また将来アスリートとして活躍するための入口として最も重要となる幼少期や小学時期のスポーツとの出会いや指導者の関わり方について、トップアスリートとして、また指導者としての視点から体験談を交えて講演していただきます。

## 【講義】「幼児期のスポーツ活動と指導者の役割」



(Yahoo検索画像より引用)

**富田 寿人 氏** 58歳  
日本スポーツ少年団常任委員、活動開発部会長  
静岡理工科大学総合情報学部教授  
日本体育学会、日本体力医学会、日本運動生理学会所属  
早稲田大学教育学部卒業、順天堂大学大学院体育学研究科修了  
早稲田大学教育学部助手を経て現職  
〔専門〕 運動生理学、体力学

子どもの発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得するための運動プログラム「アクティブ・チャイルド・プログラム」を制作し、①子どもが身体を動かすことの重要性、②多様な動きを身につけることの重要性や動きの質の捉え方、③体を使った運動遊びや伝承遊び、④身体活動の習慣化を促すアプローチの4つのテーマにまとめられ、全国の小学校等に提供している。

また、子どもが様々な運動遊びを通して楽しく、積極的に体を動かす中で、動きの量と質を引き出すという「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の普及に努めている。

本研修会では、幼児期の運動遊びから始まり、子どもの成長過程において習得すべき動作を、その年代ごとに関わりをもつ指導者や保護者の対応について、また本年から3歳以上が登録対象となったスポーツ少年団において、幼児に対する指導者や保護者の対応について講義していただきます。

## 【事例発表】「幼児の運動遊びとその取り組み」

**吉田 一栄 氏** オアシス保育園施設長

幼稚園において、走る、跳ぶ等体を動かす活動を実施する中で、その内容と目的、活動時間等を紹介いただくとともに、運動に積極的な園児または消極的な園児への対応等幼児に対する指導について、幼児教育の専門家に発表していただきます。

**中村 正人 氏** 稚内南部柔道スポーツ少年団指導者

定期的なスポーツ少年団活動の中で、主に小学生団員の兄弟・姉妹で就学前の幼児を対象に、指導者が一緒に遊びながら運動を行っているその内容や対応方法等について発表していただきます。